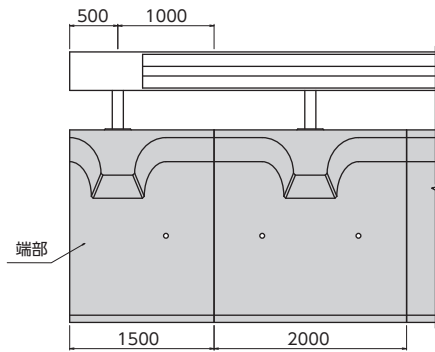


端部処理と最低連結本数

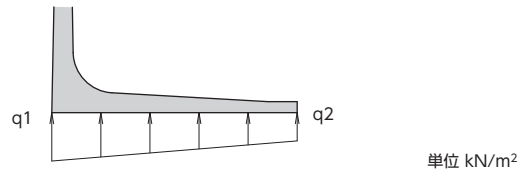
端部割付図



呼び名	最低連結本数
1000	4本(4本)
1250	3本(3本)
1500	3本(3本)
1750	3本(3本)
2000	3本(3本)
2250	2本(2本)
2500	2本(2本)
2750	2本(2本)
3000	2本(2本)
3500	2本(2本)
4000	2本(2本)

- 衝突荷重による安定計算に基づいて出された最低連結本数です。
必ず、最低連結本数以上を連結して使用して下さい。
- ()内の本数は、L=1.50mの端部用を含む場合です。
(端部用は1本のみ含まれる)
- 連結ボルトはM16(F10T)を使用しスパナ等で締め付けを行なって下さい。
- ボルトによる連結の後に連結箇所にもルタルを充填して下さい。

地盤反力度



呼び名	常時		衝突荷重作用時	
	q1	q2	q1	q2
1000	32.94(33.31)	22.04(20.38)	71.14(65.42)	—
1250	41.92(42.24)	23.03(20.85)	88.36(81.59)	—
1500	53.45(54.22)	21.25(18.14)	98.22(93.50)	—
1750	66.03(66.93)	18.31(14.66)	109.79(104.36)	—
2000	77.93(76.27)	16.19(14.72)	115.65(103.21)	—
2250	87.55(86.11)	16.45(14.21)	153.18(135.66)	—
2500	97.16(95.85)	16.70(13.84)	147.85(135.58)	—
2750	106.66(104.93)	16.92(14.03)	148.06(136.32)	—
3000	116.18(114.43)	17.14(13.84)	150.47(140.17)	—
3500	139.69(133.87)	13.91(13.86)	166.83(151.43)	—
4000	158.38(152.50)	13.94(12.89)	178.06(164.75)	—

- 土質条件が砂質土、()内は粘性土の場合の安定計算から求まる値です。
- 現地地盤の長期許容支持力が常時の地盤反力度を上回る必要があります。
- 現地地盤の短期許容支持力が衝突荷重作用時の地盤反力度を上回る必要があります。